

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	吉野ヶ里町立三田川小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標である「ふるさと三田川を愛し、新時代を強く生き抜く児童の育成」については、教職員は地域との連携を通して、児童は夢や希望に向かってとて、共に努力をしている姿がよく見られた。 校内研究における授業参観、授業研究を通して、児童の学習活動に対する意識は「好き」「まあまあ好き」が90%と良い結果である。教職員についてはタブレットの活用、個別化への対応等、時代に即した指導方法について今後も工夫が必要である。 学校生活に関わって、毎月の「教えてね」アンケートや「いじめ・体罰」アンケートにて、児童の困り感、友達関係等、早期発見、早期対応に努めた。道徳授業を中心に啓発を積極的に行うことが課題である。 体力づくりについては、毎週の「かけ足タイム」にて、伝統的かつ継続的な活動で充実を図っている。食育については、給食での残食が多いことから、食の大切やバランスの良い食事など啓発や指導に力を入れていかなければならない。 		
2 学校教育目標	ふるさと三田川を愛し、新時代を強く生き抜く児童の育成		
3 本年度の重点目標	<p>「かしこく」のために…意欲、基礎力と活用力が育つ学びの学校へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 校内研究（外国語活動、外国語教育）の充実及びICT利活用の推進 基礎基本の定着と集力向上のためのスキルタイムの実施 「授業づくりのステップ1・2・3」に沿った授業の展開 家庭学習の習慣化と読書活動の推進 	<p>「心ゆたかに」のために…ふるさとに愛着をもち、お互いを大切にし、明るく楽しい学校へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 道徳や人権教育を通して心の教育の推進 縦割り班による清掃活動と履きまの揃えの徹底 図画工作・音楽教育の活性化による情操教育の推進 芝生や花壇等の充実と、校舎内外の環境整備 	<p>「たくましく」のために…心身の健康と安全を大切にする学校へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 一人一人の価値を尊重し、居場所のある支持的風土の醸成 体育の授業の充実と、かけ足、自力登校の推進による体力の向上 子供主体の活動を通しての成就感・達成感・有用感の醸成 保護者、地域と連携したあいさつ運動の推進

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的、対話的で深い学びを意識した授業づくりに向けた共通理解と共通実践	○友達と話し合う場を中心に、自分の考えを述べたり友達の考えを聞いたりすることを肯定的に捉えた児童の割合を80%以上とする。 ○小中連携で家庭学習強化週間を年2回以上設けて実施する。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1、Vol.2」を踏まえ、国語、社会、算数、理科、外国語を中心に話し合う場を仕組む。 ・家庭学習強化週間での学習の啓発と把握に努める。	A	・研究授業を通して、話し合ったり対話したりする場面の在り方を検証している。 ・朝のスキルタイムで条件作文作りの時間を設定して、自分の考えをまとめる取組を行っている。	A	・児童のアンケート結果から、「自分の考えを述べたり友達の考えを聞いたりすることを肯定的に捉えた児童は84%であった。 ・家庭学習への取組状況を肯定的に捉えた児童は70%に留まっている。具体的な方策を講ずる必要がある。	A	・子供が落ち着いて学べる環境が必要だと思う。 ・読むことに興味を持たせるための手段として、漫画の検討もお願いしたい。	・豊かな学びづくり部長 ・学力向上推進コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上とする。	・年3回の人権集会や道徳の授業づくりに関する校内研修等の充実を図る。 ・自然教室、修学旅行、バス旅行等、校外での体験的活動を通して、社会性や倫理感を育む。	・人権集会にて、身近な出来事を基に劇を行い、児童の内面に訴える伝え方をしている。 ・自然教室、修学旅行にて、協力すること、自然を大切にすること、平和の尊さを考えること等、目的を明確にして心づかせる。	B	・毎月行う「おしえてねアンケート」を基に、小さな困り感を見逃さないこと、素早く聞き取りを行うことを常に意識している。 ・連絡帳によるやり取り、電話連絡による細やかな対応等、家庭との連携をとっている。	A	・児童のアンケート結果から、「友達に優しくしたり親切にしたりすること」ができたとした児童は、97%に達している。	A	・学校だけでなく、家庭と連携していくことで心の教育ができると思う。 ・性教育は、生命の誕生等、低学年から指導をお願いしたい。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止に向けて、アンケート結果をいかに組織的に対応を心がけたりすることができていると回答した職員を割合を80%以上とする。	・学校生活アンケートや保護者との連絡ノートを通して、児童や保護者の小さな声を積極的に取り上げ課題解決につなげていく。	A	・「毎月行うおしえてねアンケート」を基に、小さな困り感を見逃さないこと、素早く聞き取りを行うことを常に意識している。 ・連絡帳によるやり取り、電話連絡による細やかな対応等、家庭との連携をとっている。	A	・定期的に子どもの困り感や悩みを把握したり、いじめ事案に迅速に対応した教職員は97%となっている。 ・職員は、日々、連絡帳によるやり取り、電話連絡による細やかな対応等、家庭との連携をとっている。	A	・アンケート等、目に見えているいじめは、解決の糸口があると思う。目に見えないいじめについても対応をお願いしたい。 ・先生と児童や保護者、保護者間、児童間等、日常の関係づくりや対話を重ねていく。	・生活指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて、ありがとう」と回答した児童を70%以上とする。 ●将来の夢や目標に向けて、キャリアパスポートを年3回以上活用する。	・教育相談に係る校内研修の充実を図った。児童との面談に当たってモデル型の研修を行ったりしていく。	・生徒指導協議会、教育相談会、SCとの情報交換会等を通して、児童理解を深めたり、褒めて伸ばしたりしていくことを入れている。 ・キャリアパスポートを通して、児童の成長を認め価値づけている。	B	・道徳の年間指導計画のもと、「考え、議論する道徳」の授業実施に継続的に取り組んだり生徒指導を通して心の成長を促したりしている。 ・「ふれあい道徳」の授業公開、学級便りにて、保護者への情報発信や啓発を行っている。	A	・「困ったこと嫌なことがある時の相談」に対しては84%、「大きくなってからの夢や希望」に対しては88%の児童が、肯定的な回答をしている。 ・教育相談会の開催、キャリアパスポートの活用等が有効に機能していると思われる。	A	・朝のボランティア活動「読み語り」、地域との体験学習等、学校内で取り組んでいる様々な活動と結び付けて、子供自身が考えられることを期待している。
●健康・体づくり	○自他を認め合い、互いに心地よい関係に向けた授業づくりへの共通理解、共通実践	○道徳授業に関するアンケートにて、肯定的な回答をした児童80%以上とする。	・「考え、議論する道徳」授業へ向け「道徳」を踏まえ、自己を見つめさせたり、多面的・多角的に考えさせたりする授業を35時間以上実施する。	B	・道徳の年間指導計画のもと、「考え、議論する道徳」の授業実施に継続的に取り組んだり生徒指導を通して心の成長を促したりしている。 ・「ふれあい道徳」の授業公開、学級便りにて、保護者への情報発信や啓発を行っている。	B	・道徳の授業を確実に実施して、評価を行うことができた。 ・道徳を中心に、各教科で自分の体験に置き換えて考えたり、教師の実体験をもとに話したりする機会を毎回回ることができた。	A	・保護者や大人が、地域や日常生活で互いを認め合う姿を子供に見せていくことが必要だと感じている。 ・授業以外でも、同じ目標に向けて、努力したり目標達成するような活動を仕組むなど、様々な方法を考えるのも良いと思う。	・道徳主任
	●「望ましい生活習慣の形成」に向けた方策の検討及び実践	○年間を通して、早寝、早起き、朝ごはんの習慣、教室内の喚起、うがいや手洗いの奨励を行う。 ○1日3食、「健康に良い食事をしている」児童を80%以上とする。	・毎日の健康観察の充実、体調不良による保健室利用児童の減少に努める。 ・保健だよりの定期的な発行による啓発、学級活動や保健における食育教育の充実を図る。	・毎日の健康観察の充実、欠席児童や保健室利用児童への家庭連絡等、実施と結果報告を細やかに行っている。 ・保健便りにて時期に応じた疾病の対策や予防の啓発、学級活動にて1日3食の重要性の指導を継続的に行っている。	B	・毎日の健康観察の充実、欠席児童や保健室利用児童への家庭連絡等、実施と結果報告を細やかに行っている。 ・保健便りにて時期に応じた疾病の対策や予防の啓発、学級活動にて1日3食の重要性の指導を継続的に行っている。	B	・早寝、早起き、朝ごはんを意識している児童は89%に達している。 ・保健便り、校内放送等にて、疾病の対策、予防の啓発に努めたが、感染症等で多くの学級で学級閉鎖となってしまう。	B	・「早寝、早起き、朝ごはん」は、成長期の子供にとって大事なことで、家庭と連携して今後も取り組みをお願いしたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力の向上及び食育の充実に向けた教育活動の展開	○日常生活で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上とする。 ○給食の残食率6%以下を目指す。	○毎日「かけ足タイム」を実施して、距離を伸ばす、時間を短縮する数値化の目標を掲げる。 ○おいしい給食や楽しい給食として、個に応じて量や時間の調整を細やかに行う。	A	・「かけ足タイム」の実施率は、感染症、天候不順等で、実施できないことが多かった。ただ、水泳大会、なわび大会等の取り組みで、運動への意欲の向上を図っている。 ・給食時間の確保と楽しい雰囲気作り、食の大切さの指導とその理由、個に応じた量の調節により残食率の減少に努めている。	B	・「かけ足タイム」の実施率は、感染症、天候不順等で、実施できないことが多かった。ただ、水泳大会、なわび大会等の取り組みで、運動への意欲は、89%と肯定的な回答が多かった。 ・1学期から3学期に向けて、給食の残食率は6.2%から4.5%まで減少していった。	B	・「早寝、早起き、朝ごはん」は、成長期の子供にとって大事なことで、家庭と連携して今後も取り組みをお願いしたい。	・子どもの活動づくり部長 ・給食担当
	●業務効率化の推進と時間外在在等時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在在等時間の上限を遵守する。 (県費教職員、月45時間以内、年360時間以内)	●毎週金曜日に定時退勤日を設定する。 ●夏季休業期間中に学校閉庁日を設ける。 (県費教職員、月45時間以内、年360時間以内)	・週行事の効率化、会議時間の取り決め、部会や研修会の時間設定等で、見通しをもった校務の運営や処理に尽力している。 ・会議資料のペーパーレス化、校務フォルダによる情報の共有化により、業務効率の向上に努めている。	A	・週行事の効率化、会議時間の取り決め、部会や研修会の時間設定等で、見通しをもった校務の運営や処理に尽力している。 ・会議資料のペーパーレス化、校務フォルダによる情報の共有化により、業務効率の向上に努めている。	A	・年間を通して、時間外勤務の時間は、月平均25.4時間、年間332時間となった。 ・会議や部会の時間設定、校務処理の時間確保、資料のペーパーレス化、校務フォルダの活用等が機能している。	A	・学校の先生は、「忙しい」というイメージがある。子供に寄り添うためにも、学校全体で余裕を生み出す工夫や柔軟な働き方の検討を考えていきたい。
●働きやすい職場環境づくりに向けた業務の均等化、教職員間の連携	○教科主任役割、校務分掌役割の数値化によって視覚的に示す。 (1人1教科主任、1人1校務分掌主任)	○教科主任役割、校務分掌役割の数値化によって視覚的に示す。 (1人1教科主任、1人1校務分掌主任)	・一人1教科主任、1校務分掌主任を担い、業績評価、能力評価と連動して年間3回個人や組織の業務を振り返る。	B	・三部会制による校務分掌、校務分掌主任、教科主任の数値化による業務分担により、校務や業務の見える化、均等化に取り組んでいる。 ・教育反省を通して、学校運営や校務について、教職員の意見を反映したり見直しを行ったりしてより良い職場環境を目指している。	B	・三部会制による校務、校務分掌主任、教科主任の数値化による業務分担には、継続して取り組む。 ・学校の独自性、保護者や地域との関係、施設設備の面等、様々な問題や課題に対して改革を進めていく。	B	・業務を分担したり職員間で声をかけあったりして、互いを思いやる気持ちを職場の中で育むことが大切になると思う。そのためには、管理職の方々のリーダーシップ、マネジメントが重要になってくる。	・教頭、主幹、教務

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上について、県学習状況調査は、5、6年ともに県平均以上ない県平均であった。朝のスキルタイム、三田川タイム等で基礎、基本の学力の定着を図ったり、授業づくりのステップ1・2・3や研究授業を通して話し合いや対話の授業を行ったり結果であると言える。 ●心の教育について、思いやりや優しさを育むことに対しては、児童、保護者の意識は85%以上と非常に高い。また、いじめ事案については、認知件数が200件を超えたが、長期欠席につながる事案は発生しなかった。今後も保護者との連携で、きめ細やかな対応を行っていく。 ●健康・体づくりに関して、あいさつ運動、健康観察の充実、かけ足タイム、食育指導等様々な取組で、児童の意識は90%以上が肯定的な回答をしている。しかし、感染症等で、多くの学級が学級閉鎖となってしまう。より効果的な対策を講ずる必要がある。 ●業務改善、教職員の働き方改革の推進について、教職員・職員の時間外勤務の時間は、月平均25.4時間、年間332時間と上限を大きく下回っている。今後も校務分掌や教科主任等役割分担を継続して行っていく。
----------------	--